

11月・12月の管理ポイント

冬季の芝生には低温や乾燥によるストレスが掛かっていますが、生育が低下しているため気づかないうちにダメージが蓄積しています。蓄積したダメージを放置すると、春の立ち上がりに影響します。冬越し対策として、乾燥対策や栄養補給を行って行きましょう。



貯蔵養分の補給と凍害対策

グリーンメカ

ベントグラス生育期の11月は糖類の消費量が多くなります。十分施肥しても日照不足で光合成が十分行われない場合、糖類の生産が追い付かなくなります。足りない消費分を補い、冬の貯蔵分も十分蓄えるために、グリーンメカで糖類やアミノ酸をたっぷり補給しましょう。貯蔵糖類を十分蓄えた芝は耐寒性耐凍性が向上し、来春の立ち上がりも良好になります。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²

自然な色調の着色剤

カラーメイトNEO M・D

9/5
新発売

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことが出来ます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。芝の色を美しく引き出すため、冬枯れする前の使用がおすすめです。

使用量：2ml/m² 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m²

冬季の乾燥対策

液肥とのタンクミックスに

グリーンシナジー

近年は非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、実際はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題視されています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることにより利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

使用量：1~2ml/m²/月 散布水量：100ml~1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

スポット処理に最適

ハイドレーターG

乾燥が気になる箇所に手軽に処理できる、粒剤タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用ください。降雨前に散布し、後散水の手間を省く省力散布がおすすめです。1mm程度の粒剤なので散布しやすく、5mm程度の散水で溶けます。張芝した箇所の乾燥対策にも効果的です。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m²/週 予防10g/m²/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m²/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月

冬季のサッチの除去
土壌微生物の健全化

サッチ・マネージャーW

ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン. 0.25~0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²

病害予防に

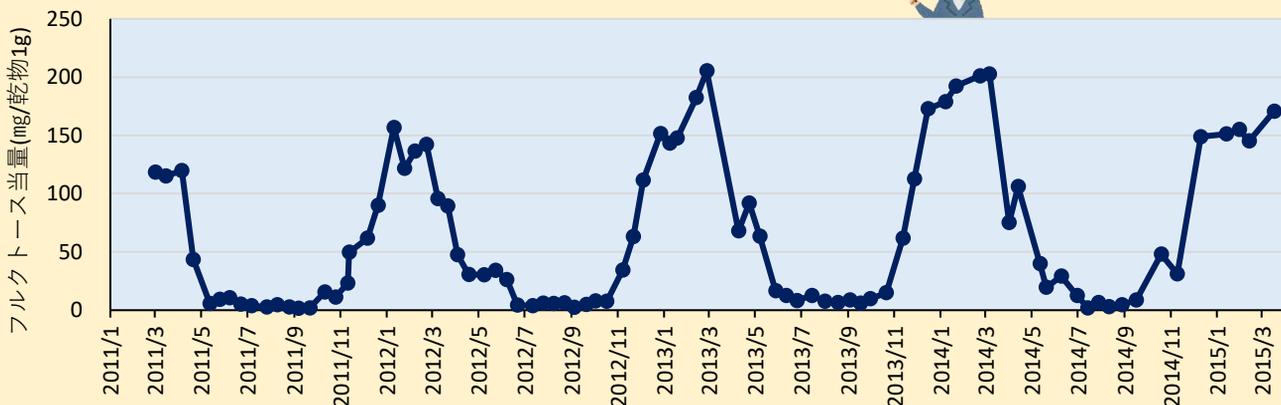
グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、年内最後の殺菌剤におすすめです。

使用量：ベントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

芝草が健全な生育をするためには養分の生産、貯蔵が不可欠です。光合成によって生産された炭水化物(糖類)は寒地型芝草では「フラクタン」、暖地型芝草では「でんぷん」として植物体内に貯蔵されます。今回はベントグラスの生育に密接に関わるフラクタン貯蔵量の年間推移と、糖類補給に適した時期を紹介します。

葉身中のフラクタン量



上図はベントグラスの刈りカス中に含まれるフラクタン量を、数年にわたり計測したデータです。フラクタンの含有量は春から夏にかけて減少、秋から冬にかけて増加するサイクルを繰り返しています。

春から夏にかけて減少する理由

- ・ベントグラスの生育期
春の立ち上がりには冬に貯蔵されたフラクタンが大量に使用される
- ・夏季高温期
光合成活性の低下+呼吸量の増加により貯蔵養分が大量に消費される
- ・刈込
日々行われる刈込により、刈りカス中に貯蔵されるフラクタンも回収されてしまう

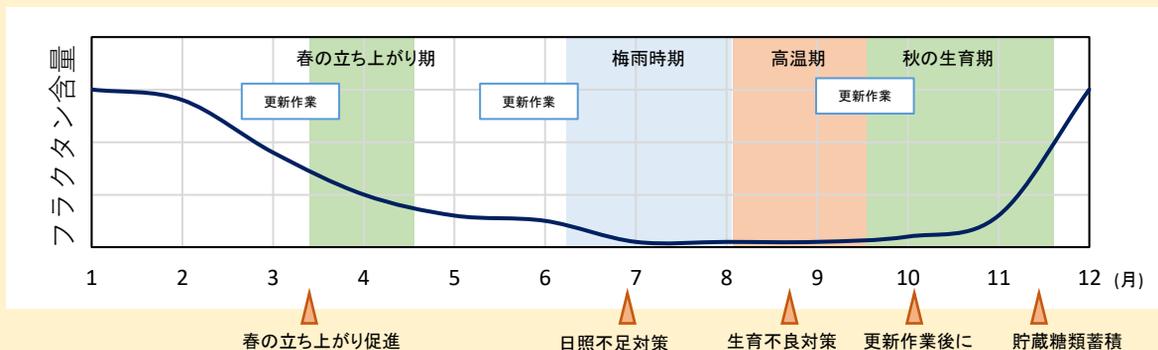


秋から冬にかけて増加する理由

- ・ベントグラスの生育が落ちる
生育量が減り、刈りカスとして回収されるフラクタンが少なくなる
- ・低温期
低温により光合成活性や代謝が落ち、貯蔵養分の消費量が少なくなる
- ・凍害への防御反応
増加した貯蔵養分は細胞中の浸透圧をあげ、耐寒性・耐凍性が向上する



糖類補給におすすめの時期



今回紹介したように、フラクタンの貯蔵量は時期によって大きく変化しています。特に冬季の貯蔵量はベントグラスの耐寒性や春の立ち上がりに大きく影響しますので、晩秋施肥をしっかりと行い冬を迎えることが大切です。栄養剤等を利用した効率的な糖類補給も効果的です。